

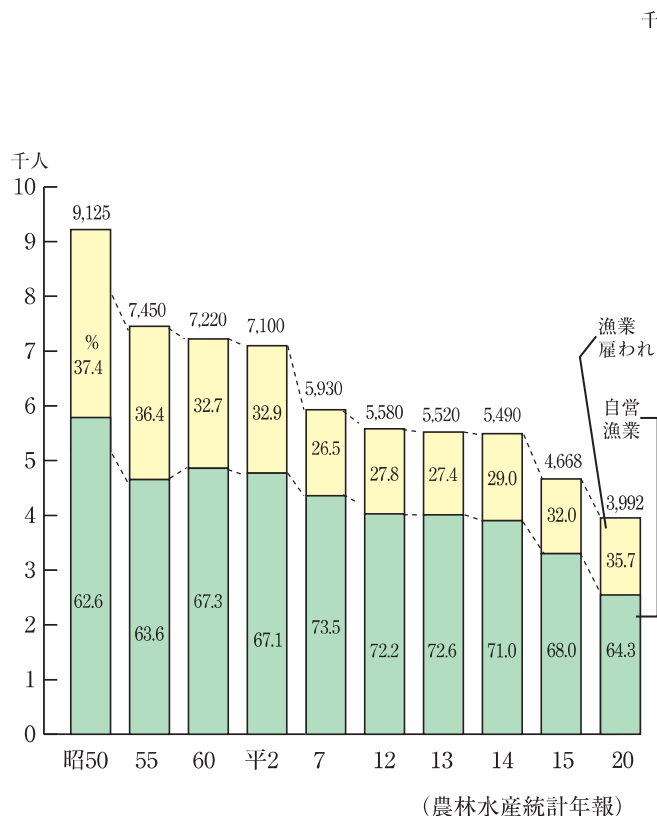
3 水産部門

1) 水産業を担う人々

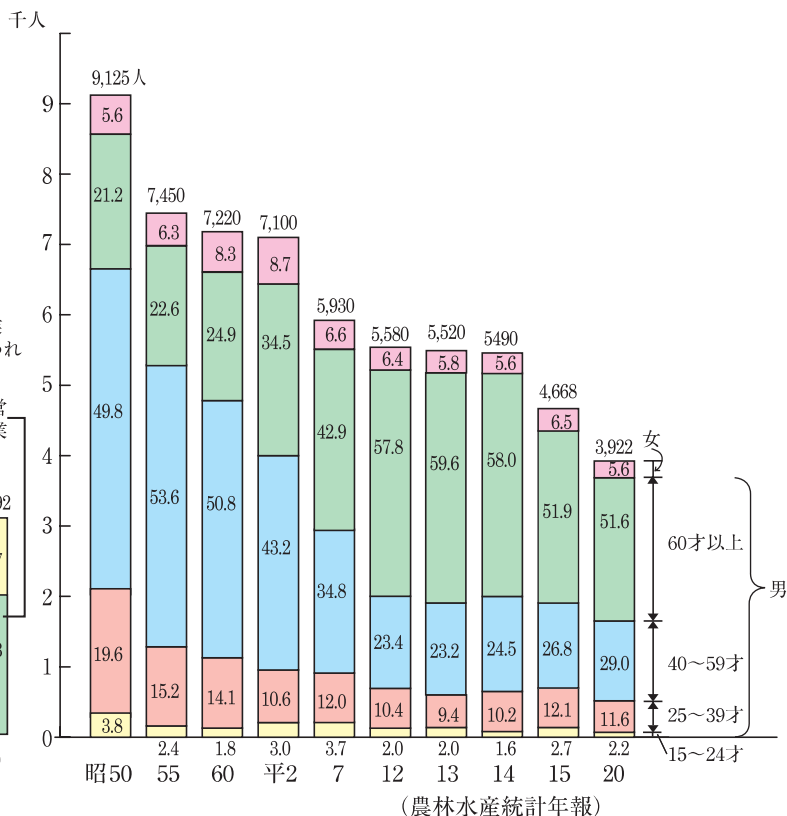
漁業就業者数は減少傾向で推移しており平成20年は3,922人である。

また、自営漁業就業者のうち年齢別では60才以上の男子就業者が51.6%を占め高齢化が進んでいる。

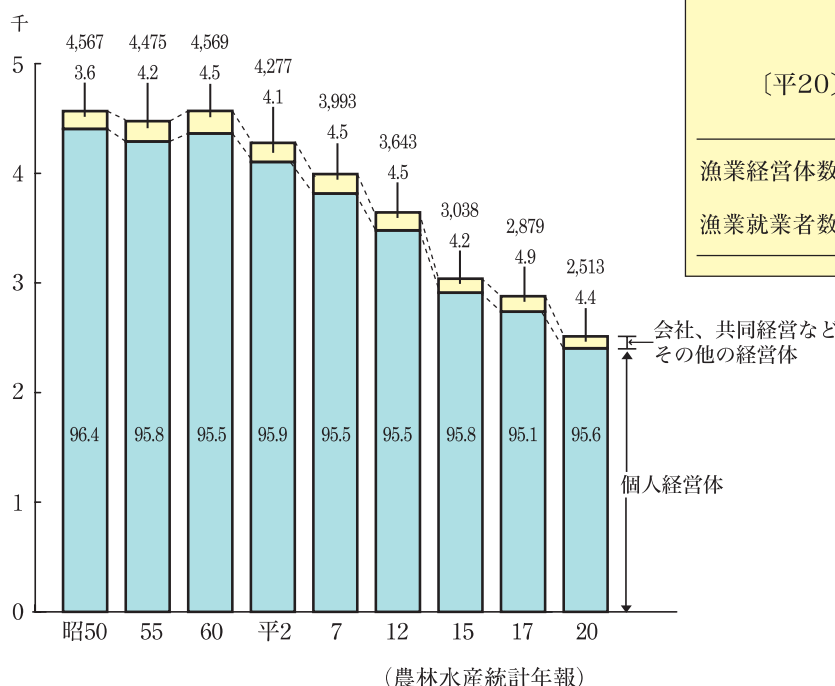
漁業就業者数の推移



年齢区分別漁業就業者数の推移



漁業経営体数の推移



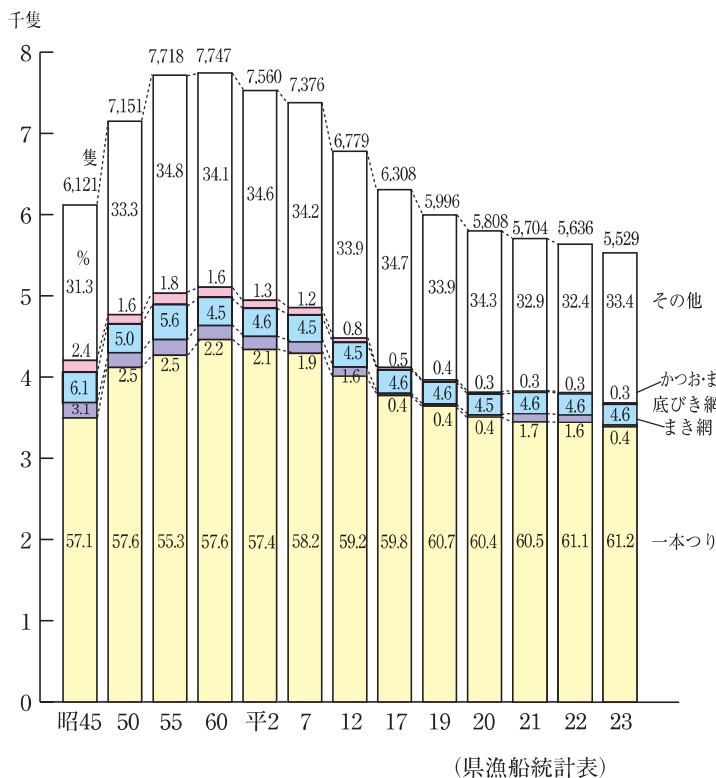
漁業経営体数等

〔平20〕	全国	和歌山県		1位	2位	3位
	実数	実数	順位	シェア (%)	県名	県名
	実数	順位	シェア (%)	県名	県名	県名
漁業経営体数	115,196	2,513	20	2.2	北海道	長崎
漁業就業者数(人)	221,908	3,922	22	1.8	北海道	長崎

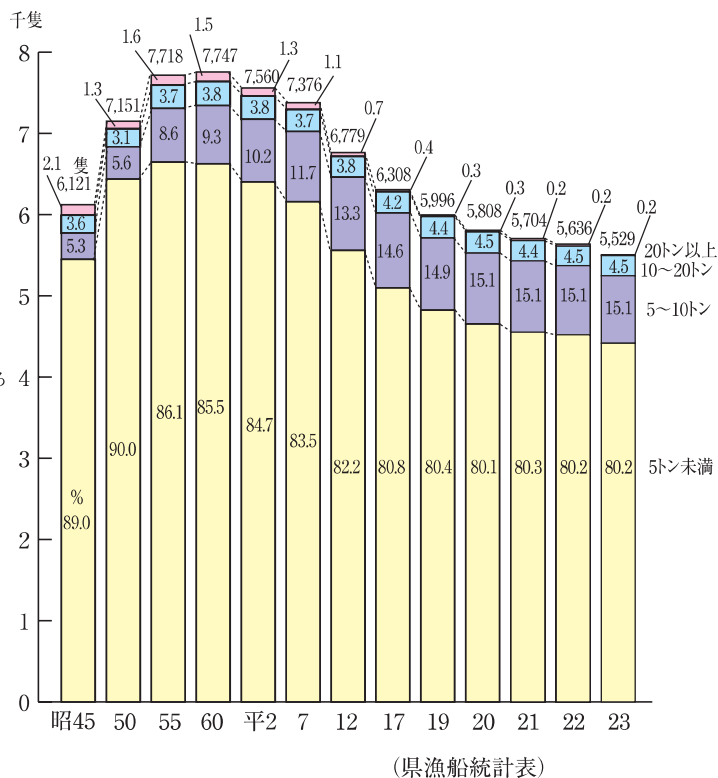
2) 水産業の基盤

海水動力漁船数は昭和60年をピークに減少傾向で平成23年12月末日現在では5,529隻となっている。漁業種類別では「一本釣り」が61.2%、「底びき網」4.6%である。トン数別では5t未満の小型漁船が80.2%と大半を占めている。

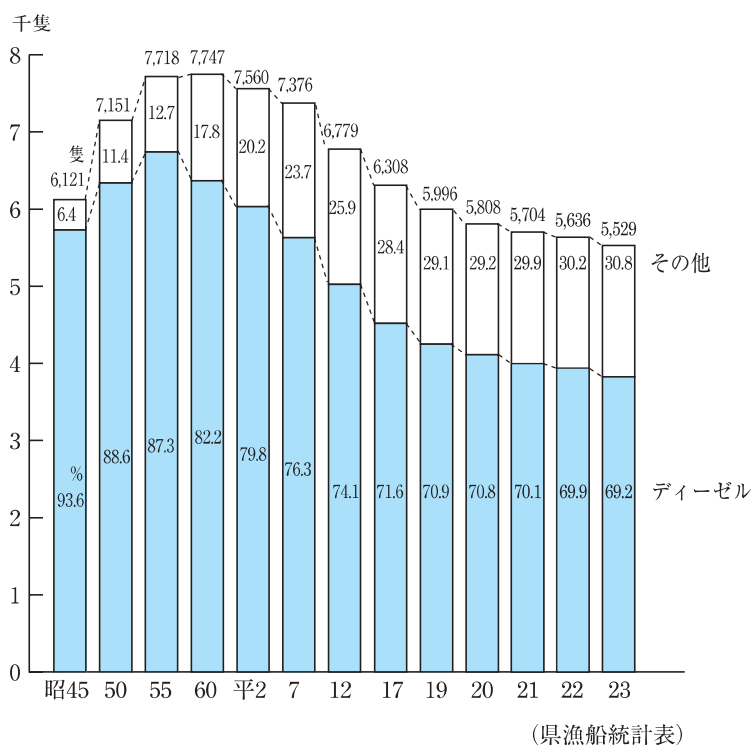
漁業種類別海水動力漁船数の推移



トン数階層別海水動力漁船数の推移



機関種類別海水動力漁船数の推移



漁港の現況

本県には、94港（全国2,914港）の漁港と、122地区（全国4,648地区）の漁業集落がある。また、漁港の種類は、漁船の利用範囲によって下表のように分類されている。

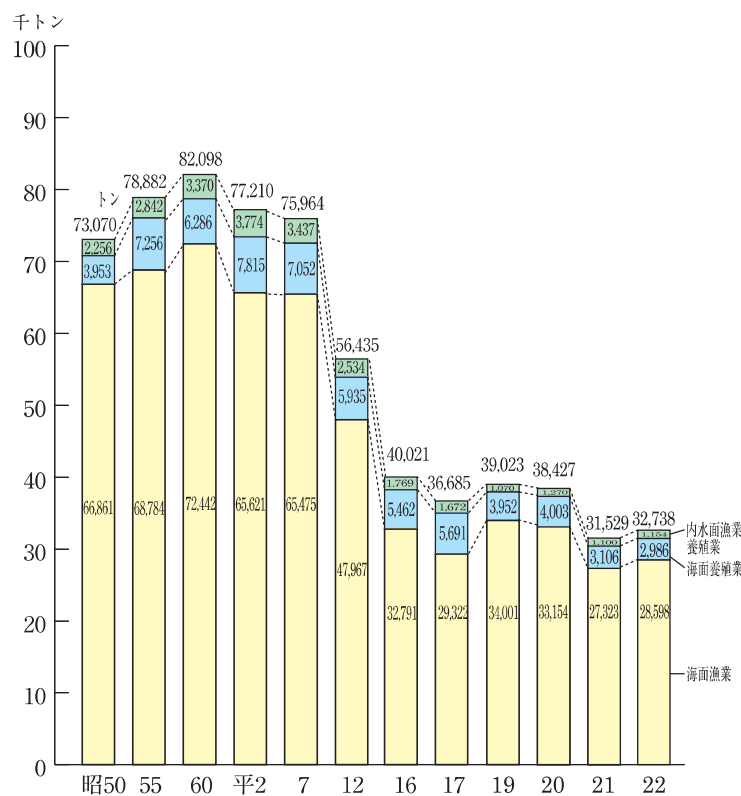
種別	漁港合計	分類の説明
第1種漁港	77	利用範囲が地元の漁業を主とするもの
第2種漁港	11	利用範囲が1種より広く3種に属さないもの
第3種漁港	4	利用範囲が全国的なもの
第4種漁港	2	漁船の避難上特に必要なもの
港合計	94	

3) 水産業の生産

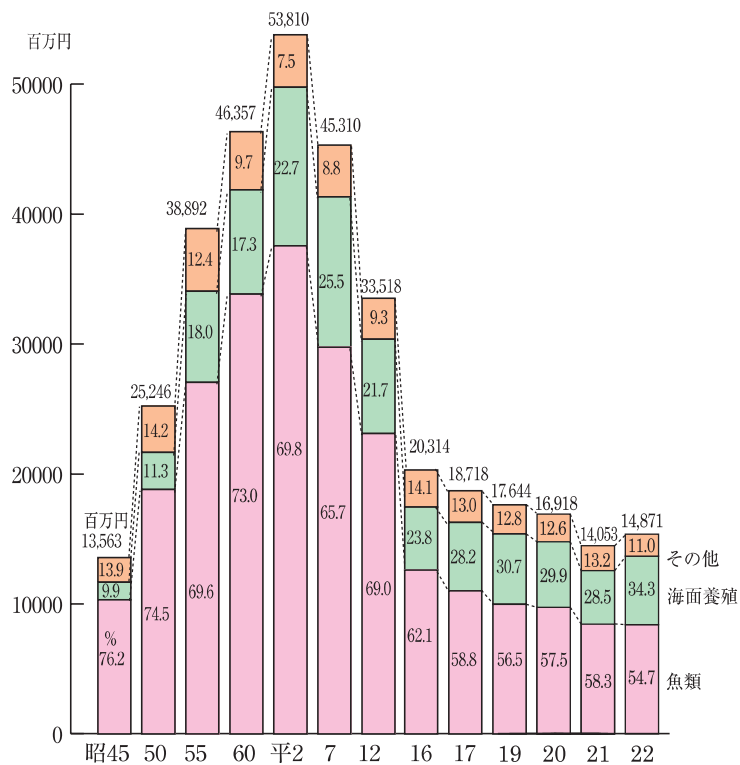
漁業・養殖業の生産量は昭和61年の88,108tをピークに減少傾向にあり、平成22年は32,738tとなっている。

海面漁業・養殖業生産額は平成2年をピークに減少傾向で平成22年は148億71百万円でピーク時の27.6%となっている。

漁業・養殖業部門別生産量の推移



海面漁業・養殖業生産額の推移



漁獲量

〔平22〕 (t)	全 国	和 歌 山 県		1 位	2 位	3 位
	実 数	実 数	順 位			
海 面 漁 業	4,121,038	28,598	27	0.69	北海道	長 崎 宮 城
魚 類	3,164,261	27,117	26	0.85	北海道	長 崎 静 岡
えび・かに・いか・たこ	358,654	983	34	0.27	北海道	青 森 長 崎
貝 類	407,155	84	38	0.02	北海道	愛 知 佐 賀
海 藻 類	97,231	191	20	0.20	北海道	愛 知 岩 手
海 面 養 殖 業	1,111,338	2,986	24	0.27	北海道	宮 城 広 島

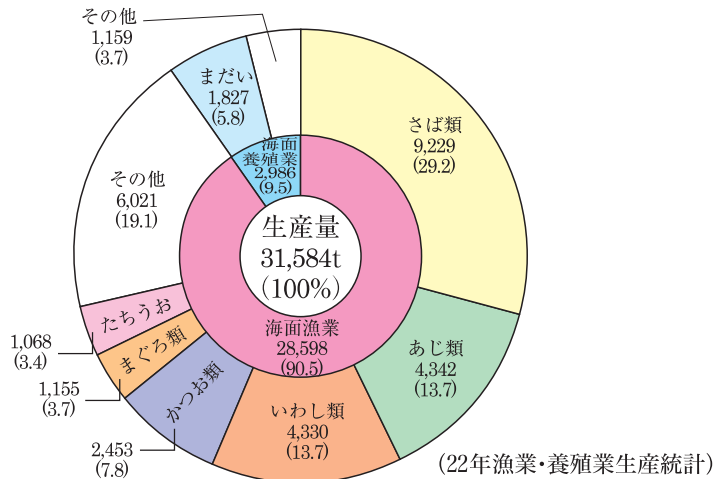
生産額

〔平22〕 (百万円)	全 国	和 歌 山 県		1 位	2 位	3 位
	実 数	実 数	順 位			
海 面 漁 業	970,875	9,768	27	1.01	北海道	長 崎 静 岡
海 面 養 殖 業	428,391	5,102	21	1.19	愛 媛	鹿 児 島 北 海 道

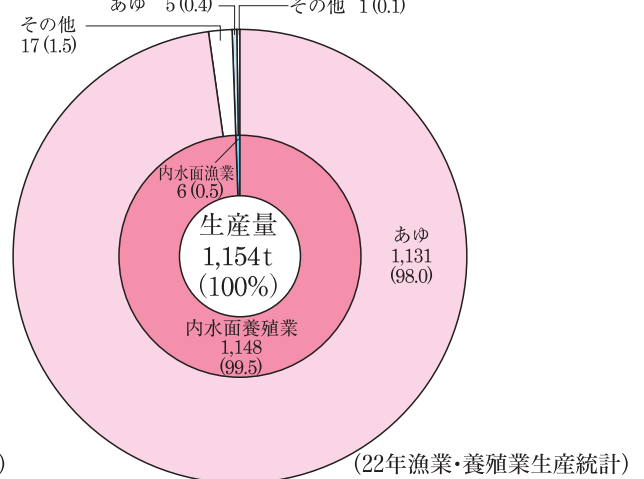
4) 主な魚種別漁獲量・生産額の推移

平成22年の魚種別の生産量は、海面漁業では、さば類32.3%、あじ類15.2%、かつお類8.6%、たちうお類3.7%となっている。海面養殖業ではまだいが61.2%を占め、内水面漁業・内水面養殖ではあゆが98.4%となっている。

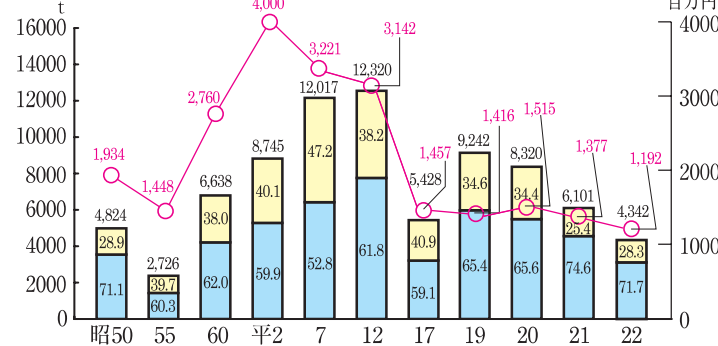
海面漁業、養殖業魚種別生産量（平22）



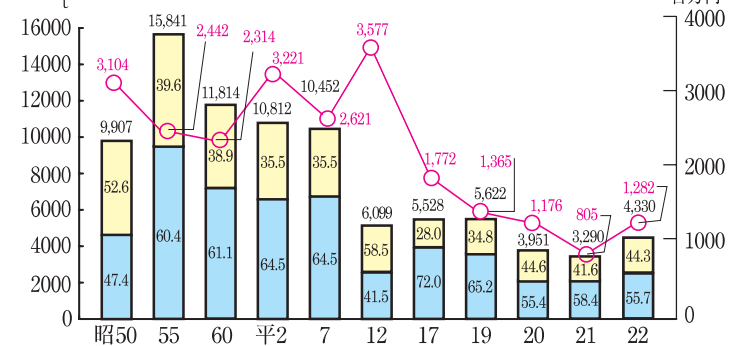
内水面漁業、養殖業魚種別生産量（平22）



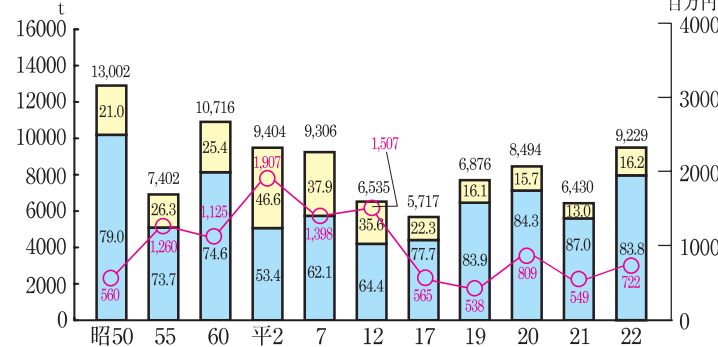
あじ類



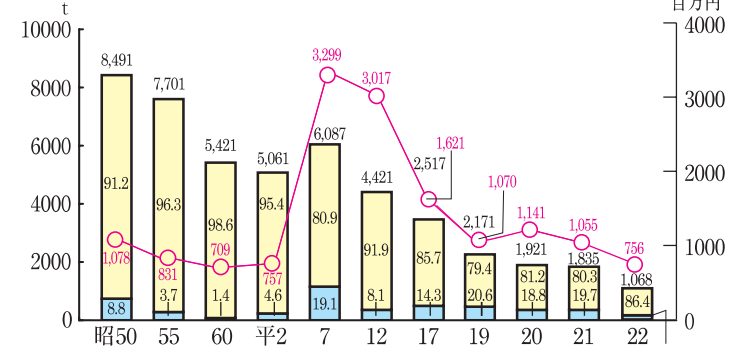
いわし類



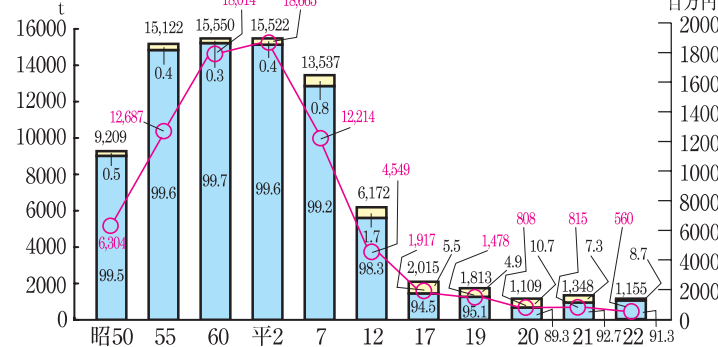
さば類



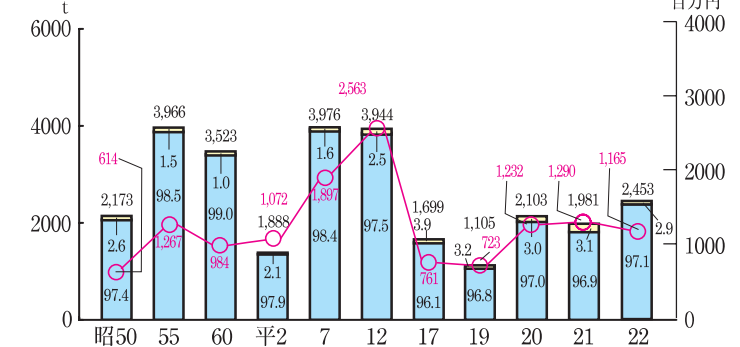
たちうお



まぐろ類



かつお類



漁獲量 瀬戸内海区 太平洋南区

生産金額 (百万円)

(農林水産統計年報)